

今月のテーマ

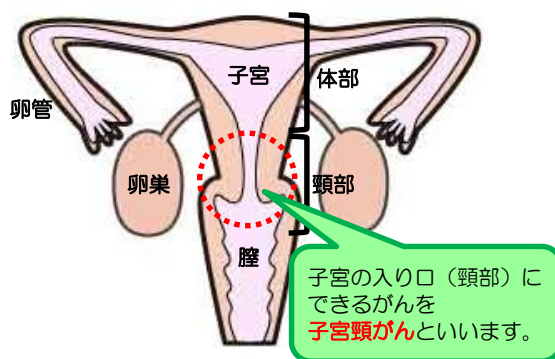
女性が気をつけたい病気・症状

～その1・子宮頸がん～

◆子宮頸がんとは

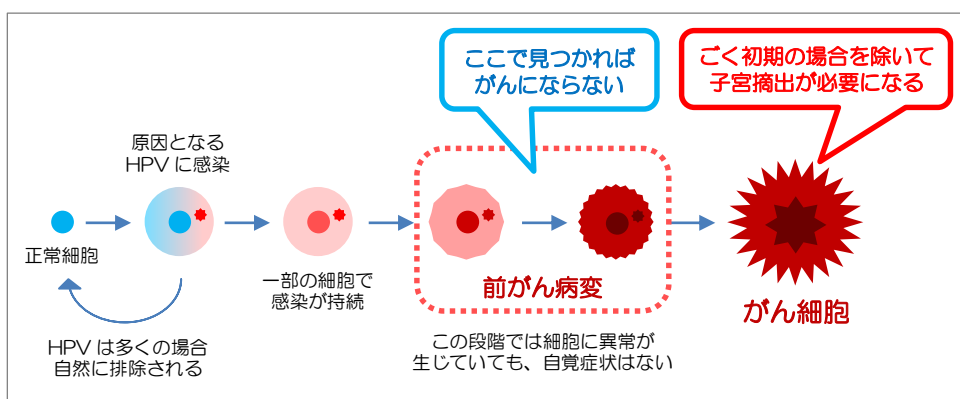
子宮頸がんは、子宮の入り口の子宮頸部とよばれる部分から発生します。子宮の入り口付近に発生することが多いので、普通の婦人科の診察で観察や検査がしやすいため、発見されやすいがんです。また、早期に発見すれば比較的治療しやすく予後のよいがんですが、進行すると治療が難しいことから、早期発見が極めて重要といえます。

子宮頸がんは子宮がんのうち約7割程度を占めます。以前は発症のピークが40～50歳代でしたが、最近では20～30歳代の若い女性に増えてきており、30歳代後半がピークとなっています。日本では、毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3000人が死亡しており、また2000年以後、患者数も死亡率も増加しています。



◆病気の原因

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因であることがわかっています。HPVは性交渉により感染し、多くの女性が一生に一度は感染すると言われる、ありふれたウイルスです。通常はHPVに感染しても、免疫



の力でウイルスが自然に排除されますが、約10%の人ではHPV感染が長期間持続します。このうち自然治癒しない一部の人は異形成とよばれる前がん病変を経て、数年以上をかけて子宮頸がんに行進します。

◆定期健診で早期発見！

子宮頸がんは30代後半で多く発症しています。この年代は子育てや仕事で忙しく、また主婦では健康診断を受ける機会もなく、会社の健康診断でも検査項目から外れている場合があります。検査の機会がないのが実情です。また婦人科の受診に抵抗があって、検査を先延ばしにしている人も多いと思います。

メスプの子宮頸がん検診、HPV検査は、自分で膣の中に綿棒のような器具を入れて細胞を採取して郵送するだけです。リラックスした状態で検査でき、痛みもなく簡単です。性交経験のある20歳以上の女性は、2年に1回は子宮頸がんの検診を受けることが推奨されています。子宮頸がんは早期にはほとんど自覚症状がありません。定期的な子宮頸がん検診を受けていれば、がんになる前の状態を発見し、治療することが可能です。進行するに従って異常なおりもの、月経以外の出血（不正出血）、性行為の際の出血、下腹部の痛みなどが現れてきます。これらの症状がある方は、婦人科の診察をうけましょう。

定期的な検診で
早期発見・治療を！



特定外来生物

◆ヒアリ

今から約2年前の2017年6月、神戸港に中国から運ばれてきたコンテナの中に奇妙なアリが多数紛れ込んでいることが発見されました。これがヒアリ騒動の最初です。当時、テレビで盛んに危険を説明していた方を、皆さんは覚えておられますか？ロックスターのような風貌で驚きましたが、実は国立環境研究所の先生で、京都大学博士の五箇公一さんという方です。

この2017年はここでもあそこでもヒアリの発見報道が相次ぎましたが、その後はメディアが取り上げなくなったためか、世間の方々には縁遠い問題になってしまったようです。では本当はどうなったのでしょうか？2017年は合計26地点で、2018年は11地点、そして今年もすでに1地点で発見されています。発見数が減ってきているように見えますが、世界的な状況（北米・南米・中国・オーストラリアなどで繁殖）から考えるといつでもどこからでも輸入大国の日本に侵入する危険性はあるように思えます。

このヒアリ、何が怖いのでしょうか。ヒアリの英名は【fire ant：ファイアー・アント】で、刺されると猛烈な痛みを感じ（火傷をした時のような痛み＝fire：ファイアー）、時にはショックで死亡する場合があります。さらには猛烈な繁殖力でほかのアリや昆虫の生息地を侵略し、生態系を破壊します。また定着した場合、その対策額も膨大なものになります。住宅地で増えると住民の生活に支障が出る、農地で繁殖すると作物や農作業に影響が出る、牧場にすみつくと牛の乳の量が激減する、などの問題が出るためです。アメリカの例をとると、駆除費用が7000億円を超えるとの報道もあるようです。

では現在、どのような対策が実施されているのでしょうか。環境省では水際作戦が最も有効だと言っています。早期発見・早期駆除、これによって日本に定着させないことですね。そのために、全国の港湾地区でヒアリ調査を環境省主体で継続しており、最近ではヒアリキットという優れたもののヒアリ判定器具を開発して、素早く見つけられるように活動しています。皆さんももし見たことのないアリがたくさん発見された場合は、ヒアリ相談ダイヤル（0570-046-110）にご報告ください。

＜ヒアリ＞



出展：環境省 外来種写真集より

◆ヒアリ以外の特定外来生物

そもそも、特定外来生物には哺乳類から爬虫類、昆虫、植物に至るまでなんと150種類ほどが登録されています。アリだけををとっても、ヒアリ以外にアカカミアリ、アルゼンチンアリなどがいます。このうち私たちが住む京都ではアルゼンチンアリが数年前から問題となり、専門の研究者の方々が一生懸命駆除して成果が上がってきています。一方、セアカコケグモなどは既に全国に定着してしまっているようです。このクモ、色目に特徴がありますので、見かけたら触らないようにしてください。噛まれると大変痛いそうです。

＜セアカコケグモ＞



出展：環境省 外来種写真集より

科学的に立証されている「ことわざ」

～虫の知らせ～

あれこれ考えるよりも、ふとした瞬間に気づきがあったり、直感に従ったほうがよいことはありませんか？イギリスの大学で行われた実験では、ある問題を0～1.5秒の間で回答させると、1.5秒ほど見直す時間があると正解率70%、すぐに回答すると95%という結果が出ました。また4秒以上考えると、すぐに回答した場合と正解率は同じになりました。長時間考えると正常な判断ができる一方で、直感を馬鹿にしてはいけないということが分かったのです。

ぼーっとすると脳は正常の15倍動き、アイデアもわきやすくなるという研究報告もあります。家事や仕事の合間にあえてぼーっとしてみれば、虫の知らせも聞こえやすくなるかもしれませんね！



今月の迷曲 vol.12

(youtubeで見られます)
love of my life / QUEEN



(by 桜餅の葉っぱ)